

「ヤコブの殉教」

2016年05月25日

使徒言行録 12 章 1 節～5 節。そのころ、ヘロデ王は教会のある人々に迫害の手を伸ばし、ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、除酵祭の時期であった。ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。こうして、ペトロは牢に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。

ヘロデ・アグリッパ一世が在位していた。彼は、エルサレム神殿を建てたヘロデ大王の孫で、37年に、ローマのカリグラ皇帝から、叔父ヘロデ・フィリポの領地を与えられ、王の称号を得た。幼友だちのクラウディウスが皇帝になると厚意を受け、従来の領地にユダヤ、サマリア地方を加えられ、事実上のパレスチナ全土の王となった。彼はエルサレム神殿に多額な献金をし、ユダヤ教徒の信望を集めた。また、民衆の福祉を計り、公共浴場や劇場などの建設にも力を注いだ。ただ、エルサレム教会の信者たちを嫌い、迫害を加えた。

ヘロデ王は信者たちに迫害の手を伸ばし、まず使徒ヨハネの兄ヤコブを捕え、剣で殺した。ヤコブの殺害をユダヤの民衆が喜ぶのを見て、ペトロをも捕え、牢に入れ、4人1組の兵士、4組に引き渡し監視させた。16人の兵士に厳重に監視させた訳である。時は除酵祭の時期で、過越祭が終わった後、民衆の前で殺害しようと考えていた。エルサレム教会では、第一の使徒ペトロの命が守られるように信者たちは集まり、熱心な祈りを捧げた。

ヤコブ、ヨハネ兄弟はガリラヤの漁師ゼベダイ家の息子であった。兄弟は、主イエスからの招きを受けた時、父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して従っている。雇い人がいた漁師であるから、「網元」のような漁師の息子たちであったと思われる。彼らは主イエスから「ボアネルゲス（雷の子）」とあだ名をつけられている。気性が激しく、野心的な兄弟であったのであろう。主イエスが毅然としてエルサレムに上る姿を見て、いよいよ革命を起こし、ローマからの解放をもたらし、王になられると思った。この時、兄弟は他の弟子たちを出し抜いて、主イエスに「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」と懇願した。自分たち兄弟こそが高位を得られて当然であると考えたのである。十字架の死に向かう主イエスの心はどれほど寂しかったであろうか。主イエスは「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっているか。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」と言われた。彼らは高位が得られると思い、勢い込み「できます」と答えた。すると主イエスは「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる」と言われた。他の弟子たちは、秘かに、高位の約束を得ようとする卑劣な兄弟に憤慨した。彼らが皆、野心を抱いているのを見て、主イエスは一同に対し「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振っている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい」と教えられた。主イエスの言葉通り、ヤコブは主イエスが飲まれた杯（十字架）、即ち、苦難を最初に負うことになった。キリスト教界において、最初の殉教者はステファノであったが、使徒たちの中では、ヤコブが最初の殉教者になった。